

アジア太平洋道路交通安全フォーラム (APRSO) 2024年次総会への参加

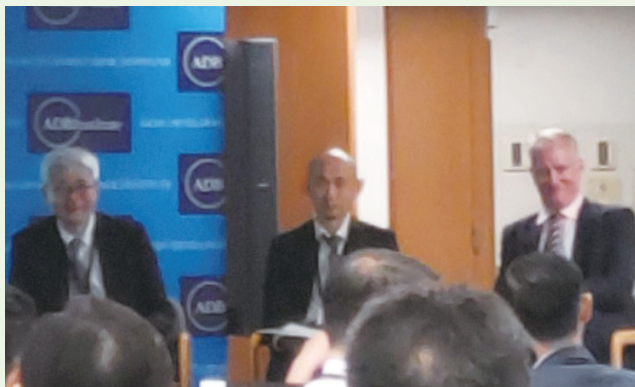
2024年10月8日～9日

2024年10月8日～9日に、アジア太平洋道路交通安全フォーラム (Asia-Pacific Road Safety Observatory : APRSO) 2024年次総会が開催され、当研究所から研究員3名が参加しました。

APRSOは、アジア太平洋の道路上の人命保護を確保するための、道路安全のデータ、政策及び実務に関する地域フォーラムです。アジア開発銀行 (ADB)、世界銀行グループ、国際自動車連盟 (FIA)、国際交通フォーラム (ITF) 及び国連アジア太平洋委員会 (ESCAP) により2020年に設立され、世界保健機構 (WHO) 等が支援しており、ADBが事務局を務め、アジア太平洋の27国がメンバーになっています。今回の年次総会は「安全で持続可能な都市交通」と銘打って、APRSO及びADBの主催、JICA及び国際交通安全学会 (IATSS) による協賛並びに貧困削減日本基金 (JFPR、ADBを通じた日本政府が資金拠出) による資金支援により、アジア開発銀行研究所 (ADBI、オフィス：東京) で開催されました。

当研究所はADBとの連携を2023年から改めて取り組むことにしましたが、今回の発表参加は、2024年5月のアジア太平洋運輸フォーラム2024への発表参加 (運輸総研だより Vol.11 2024夏号P.84を参照) に続くものです。

10月8日の開会に際しては、園部哲史氏 (ADBI 所長)、James Leather氏 (ADB 分野グループ交通分野室新興領域チーム課長)、TAKAMI Manabu氏 (JFPR、オンライン出席) 及び須原靖博氏 (JICA 社会基盤部運輸交通グループ第一チーム課長) が歓迎挨拶をしました。また、「道路安全における日本の経験」と題する導入講演を福田敦氏 (日本大学理工学部交通システム工学科教授、IATSS) がしました。全体セッション「安全で持続可能な交通」では、久保田尚氏 (埼玉大学名誉教授、IATSS) が、諸外国と比較した日本の交通事故の特徴等を発表しました。



左から、園部 ADBI 所長、須原 JICA 課長、Leather ADB 課長



開会式

10月9日は、「安全で持続可能な都市交通に取り組むためのプロジェクトの発展」をテーマとして、年次総会に加えて、対面参加者による複数のセッション等が開かれました。そのうちのワークショップ「ラストマイルの確保」では、Jenny Donghua Xia 氏 (Global Road Safety Partnership (GRSP) アジア太平洋地区普及及び援助上席 Officer) がモデレーターを務める中で、NAKAI Kanzo 氏 (ADB 分野グループ交通分野室スマートモビリティチーム課長) による発表「ADB の交通ビジョン」を皮切りに、駒田聡太氏 (三菱地所設計 Global Design Office コンサルタント)、当研究所の鈴木淳主任研究員、Wang Xuessong 氏 (Tongji 大学教授)、Greg Smith 氏 (International Road Assessment Programme (iRAP) Global Programme Director) が順次発表し、続いて議論が行われました。

鈴木主任研究員による発表「自動車の自動運転の現状と課題」(原文は英語) は、当研究所の共同研究調査「運輸分野における自動運転導入の効果・影響と普及加速化」(2023～2024年度) を基にして、商用自動車における自動運転の普及の状況について、日本と世界各国の比較結果を紹介したほ



ワークショップの開始：右から、Xia 上級 Officer、NAKAI 課長、駒田コンサルタント、鈴木主任研究員、Xuessong 教授、Smith Director



NAKAI課長による発表



鈴木主任研究員による発表

か、日本における自動運転の普及・加速化に向けた課題と対応策について紹介しました。また、ワークショップのテーマに関連し、自動運転の活用によるラストマイルの確保につながる街路整備の方策について、日本における望ましい都市像

(コンパクト プラス ネットワーク) の観点も含めて紹介しました。(なお、当該共同研究調査の中間報告については、9月26日の当研究所第55回研究報告会で報告済み。本誌P.16～を参照)



日本での自動車の自動運転

5. Issues facing introduction and dissemination in Japan

The issues facing autonomous driving in Japan are categorized into four categories

Classification	Issues and Overview	Details(Automobile)
I. Technology Development	I-1. Driving safety I-2. Other technologies	1) Developing technology. Methods of establishing safety. 2) Communication between people and cars./ Emergency response.
II. Environmental Improvement	II-1. Infrastructure II-2. Human resources / organizational structure II-3. Laws / Guidelines II-4. Funding	3) Improvement of road and communications environment. 4) Specialists and Promoters 5) Legal responsibility in the event of an accident 6) Lack of financial resources.
III. Social Design	III-1. National Initiatives III-2. Local government initiatives III-3. Business model / sustainability	7) Time to solve issues 8) Lack of sharing of experimental results and overall planning 9) Low cost-effectiveness.
IV. Social Acceptability	IV-1. Social acceptability	10) Demonstration and operation stops by one accident.

日本での導入・普及に向けた課題